

令和3年度 学校経営報告書（自己評価）【全日制】

学校番号	40	学校名	県立科学技術高等学校	校長名	松村 照司
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	日常の学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に主体的に取り組んでいると答える生徒90%以上 授業の内容がよく分かると回答する生徒90%以上 教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めていると答える保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 84.3% (85.0%) 目標には届かなかった。 84.6% (90.6%) 目標には届かなかった。 72.9% (83.8%) 目標には届かなかった。 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス(ワクチン)の影響で、出席停止となる生徒が多い中、生徒自身の学びの意識を維持できた。 今後は「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、生徒たちが自ら「どのように学ぶか」に焦点を当てた授業改善が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 1日、授業、課外活動、家庭の合計時間が10時間達成50%以上。 学習と部活動等の課外活動が両立できていると答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 47.0% (38.0%) 目標には届かなかった。 67.0% (65.0%) 目標には届かなかった。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間と放課後活動の相互作用により、更に充実した学校生活を送るための意識高揚を図っていく。 授業と放課後の活動の相互作用により、更に充実した学校生活を送るための意識高揚を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 教養力テストの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 12回(8回) 達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り年12回実施することができた。
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 手帳等を活用し、生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができている生徒60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 26.6% (26.6%) 目標には届かなかった。 1年 25.3% (28.0%) 2年 23.2% (22.9%) 3年 31.5% (28.8%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で成果を得て放課後は部活動に励むといった意味での両立はできていると思われる。今年度学年として家庭学習時間調査は行っていないが、Google クラウドで手帳を活用したスケジュールや学習時間の管理、テスト前の学習計画の方法、PDCA サイクルについて等、生徒の自己管理能力を高めるべく様々な情報を随時配信した。 進路指導、補講や個別学習指導や面接指導、小論文指導を通して生徒は将来の夢が明確化し、また教員への信頼度も増した。その結果として、多くの生徒が希望する進路実現ができた。今後、さらに進学状

様式第3号

					況や就職状況を改善するためには、生徒の自発的な進路研究、進路指導、学習指導においても考えさせる場面の増加が必要と思われる。	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒80%以上 信頼できる先生がいると答える生徒80%以上 きめ細やかで適切な進路指導がなされていると答える保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 70.6% (70.7%) 目標には届かなかった。 1年 64.1% (68.3%) 2年 69.6% (61.0%) 3年 78.0% (83.3%) 全体 76.2% (76.3%) 目標には届かなかった。 1年 76.6% (76.0%) 2年 74.8% (73.9%) 3年 77.1% (78.9%) 全体 78.4% (77.8%) 目標には届かなかった。 1年 69.0% (69.2%) 2年 77.8% (73.9%) 3年 87.9% (92.2%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導体制を堅持することで、達成していくものとして捉えたい。 コロナ禍の影響で、集会をはじめ、各種行事やPTA活動も制限があり、生徒と教員、保護者と教員の間での情報交換や交流が少なかったことが考えられる。このような状況下での関係づくりや情報発信の工夫が課題である。 日常での生徒の言動や普段と違う兆候など、職員間で情報を共有することを引き続き実践していくことが課題である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者60人以上 就職内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格者 42人 (36人) 高専合格者 3人 (3人) 就職内定率【100%見込】 ※令和4年2月1日時点 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの職員の協力があり、生徒の進路実現に繋げることができた。しかし、職員の負担が増えてきている。学校全体で指導するシステムを構築することで、今後職員の負担軽減に繋げていきたい。 	
部活動を効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に参加している生徒70%以上 学校が楽しいと答える生徒70%以上 部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができたと答える教員90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 77.6% (79.0%) 達成できた。 84.0% (60.0%) 達成できた。 75.4% (72.9%) 目標には届かなかった。 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限のある中、部活動ガイドラインを踏まえ、合理的・効果的な活動を実践し、全国大会、東海大会出場をはじめ県大会入賞など多くの部活動で成果を挙げている。また部活と勉強の両立ができるよう学習習慣を身に着ける取り組みをしている部活動もあった。生徒自らが、課題を見つけ解決しようとする姿勢が身につけば更に成果が期待できる。 様々な制限がある中で、感染対策を含め部活動ガイドライン沿った効率的な活動を行うことができた。

様式第3号

	<p>生徒主体の活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が企画した事業の実施年2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 行事は生徒が主体的にかかわられるように企画されている。83.4% (81.6%) 委員会や当番の仕事がきちりできている。89.0% (83.0%) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や文化祭では企画から運営までを生徒会が中心となり行い、自主性や実践力、団結力の高揚、人間的な成長を促す機会となった。また、コロナ禍で生徒が集まることのできない中、生徒会の工夫を凝らした活動により対面式や生徒総会、式典などの行事を開催することができた。生徒の自主的な活動を促し、各委員会活動の更なる活発化を期待したい。
<p>イ</p>	<p>探究的な教育活動を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEAM 教育等の教科横断的な取組を実践する。 	<p>【機械工学】概ね達成した。</p> <p>【ロボット工学】課題研究で、14テーマの発表を行った。</p> <p>【電気工学】工業教育研究会主催生徒研究発表会に発表参加。E3 生徒4名発表 発表テーマ「安全についての研究」</p> <p>【電子工学】JMCR2022 東海地区大会へ参加</p> <p>【情報システム】主体的に課題研究に取り組むことができ、外部への活動も行えた</p> <p>【建築デザイン】設計競技、ものづくりコンテスト等対外競技入賞者数40超</p> <p>【都市基盤工学】課題研究では6テーマについて、生徒が主体的に研究活動を行い、技能・技術、研究を深めることができた。</p> <p>【物質工学】大学出前授業2校 静岡大学工学部化学バイオ工学科 静岡県立大学食品栄養学部</p> <p>【理数】中学生を対象とした</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【機械工学】コロナ禍のため、対外的なイベントが縮小された影響で活動する場面がなかった。そのような中行われた蒼穹祭では、課題研究作品展示、動画による中間報告などを行った。1、2年生で実習作品を準備して、その作品を来場者に配布してPR活動を行った。</p> <p>【ロボット工学】製作活動前の設計や関係知識の研究の時間が不足している。毎年新しいテーマに取り組みなくとも2～3年で製作物を完成させる方が生徒、教員とも力が着くのかと思われる。</p> <p>【電気工学】本年度は、電気工学科が工研生徒研究発表会の発表担当である。このため、課題研究の授業にて、発表会を目標とした研究を行い、他校では類がない「安全」について取りくみ発表を行う。防災を意識したものづくりを行い、生徒の工学に対するスキルが向上した。</p> <p>【電子工学】出場した11台のマシンがすべて記録を残すことができた。また、2部門において全国大会出場の権利を得た。</p> <p>【情報システム】生徒が希望する研究内容に応じて、必要に応じて外部連携を推進する</p> <p>【建築デザイン】部活動を中心に時間外勤務による成果。働き方改革として課題あり。</p> <p>【都市基盤】それぞれのテーマに分かれ意欲的に学習に取り組んだ。その成果を防災訓練、学校祭、課題</p>

様式第3号

			<p>科学教室を8月、9月に計画し、9月のみ実施した。 【電子物質工学】 大学合同説明会に1回参加した。</p>	<p>A</p>	<p>研究発表会等で広く発表することができた。 【物質工学】 出前授業において、最新の研究や大学での学習内容を聞くことで、大学進学に向けて意識を高めることができた。就職を希望する生徒もいるので大学の出前授業だけでなく企業見学も行う。 【理数】 中学生の参加者は、45名であった。(定員45名) 感染症への対策も継続する。 【電子物質工学】 コロナ禍の影響により企業や大学訪問に行くことができなかったが、合同説明会によって進路意識を高めることができた。コロナ禍が終息次第、企業や大学訪問を行い、次年度以降、出前授業も取り入れて実施していきたい。</p>
<p>専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞 ・国家資格等の高度な資格に挑戦させ、受験者数及び合格者数の増加。全学科で記述者倫理に関する指導を行う。 	<p>【機械工学】 前期技能検定2級普通旋盤1名合格、3級5名合格、機械検査2名合格。後期技能検定 (R4/3/11発表) 3級普通旋盤5名受験、3級機械検査4名受験、3級テクニカルイラストレーションCAD15名受験、3級機械製図 CAD3名受験。第二種電気工事士3名合格。JIS 溶接評価試験基本級 A-2F3名合格、専門級 A-2H3名合格、専門級 SA-2H2名合格。ものづくりマイスター、静岡県講師派遣事業を活用して技術向上。</p> <p>【ロボット工学】 高校生ロボット競技大会 2.3.5位入賞 静岡県ものづくり競技大会 シェイクス制御部門、機械CAD部門参加予定</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>【機械工学】 静岡県ものづくり競技大会旋盤フライス部門出場、静岡県溶接アートコンテスト出展。その他の大会に参加を促し活躍することができた。旋盤では、東海地区大会1位、全国大会2位。フライス盤競技では若年者ものづくり競技大会出場を果たした。練習や製作には課題研究・学科研究部活動を活用して指導した。今後は継続して指導していく。</p> <p>【ロボット工学】 生徒独自の発想からロボットを製作し、創造性、問題解決能力を養うことができた。指導教員の人数の確保と勤務時間外の指導が課題。情報システム科との連携で電気工事講習を実施。</p>	

			<p>第二種電気工事士27名受験 21名合格。合格率77.8% (2年18名、3年3名) 技能検定電気機器組立て(シ ーケンス制御)26名受験 (結果発表3月19日)</p> <p>【電気工学】第三種電気主任 技術者(電験三種)残念な がら合格者は出ず。 第一種電気工事士合格 筆記合格は25名 技能合格 3年:14名 2年:10名 二級電気施工管理技工 合格1名</p> <p>【情報システム】日本情報オ リンピック(JOIG)への参 加、若年者ものづくり競技 大会に出場できた</p> <p>【建築デザイン】施工管理技 術者合格率58% 後期技能検定を受験予定</p> <p>【都市基盤工学】・2級土木施 工管理技術検定試験2年生 の合格率95%(37人/39人) 3年生の最終合格率98% (39人/40人) 2級造園施工管理技術検定 試験 3年生の合格率 69.2%(18人/26人)</p> <p>・測量士補 3年生合格者4人、合格率</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>補習の対応だけで取り組んでいる資格としては合 格率が高い。技能検定は機材の関係で補習の計画が 大変である。指導する担当が固定化しており、担当 の負担が大きい。教員数の確保、朝、放課後等勤務 時間外の指導となるので、教員のボランティアに頼 っている。</p> <p>【電気工学】第一種電気工事士の受験者が昨年度に比 べ大幅に増加して、筆記試験の合格者は、2、3年合 わせて25名となった。昨年度より6名増加。新型 コロナウィルスの影響で放課後補講が実施できな くなったため、動画配信による補講を行なった。 電験三種の放課後補講を月曜日に計画し実施した。 今後生徒が自由な時間帯で視聴できる電験三種の 動画配信(限定公開)も開始した。 運動部生徒の第一種電気工事士の受験が課題。</p> <p>【情報システム】若年者ものづくり競技大会において 銅賞、JOIGにおいて敢闘賞が獲得できた。</p> <p>【建築デザイン】生徒の資格取得への意識が高まって いることはよい傾向にある。学校の課題との両 立を目指したい。</p> <p>【都市基盤工学】3年生において高度資格となる国家 資格を複数持つ生徒を多く輩出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格7つ(1人) ・国家資格3つ(7人) ・国家資格2つ(10人) <p>3年生について、ジュニアマイスターゴールドが7 名、シルバーが6名の資格を取得した。</p> <p>【物質工学】各種検定対策を行い、左のような合格率 であった。特に電子物質工学科1年生の危険物取扱 者乙種四類の合格率は昨年以上の結果であった。 教員数減による指導者と指導時間が確保できなく なっている。</p>
--	--	--	--	-------------------------------------	---

様式第3号

			<p>40% (4人/10人)</p> <p>【物質工学】技能検定化学分析部門合格者 67%</p> <p>ものづくり大会東海大会化学分析部門 2位</p> <p>危険物取扱者乙種四類合格率 55% (S科1年)</p> <p>【理数】R3 英検合格者準2級 23名、2級 10名</p> <p>感染症流行のため、検定受験者が減少している。</p> <p>【電子物質工学】1年生の危険物取扱者乙種四類の合格率は55%であった。</p> <p>情報技術検定3級の受験。合格率92.3% (36人)</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【理数】準2級合格者は減少した。(78%⇒83%⇒61%) 2級合格者は増加した。(7名⇒5名⇒10名) 中学生時代に準2級、2級を取得している者が増えている。</p> <p>【電子物質工学】生徒が危険物取扱者の受験から、資格取得に対して興味関心を持たせることができた。興味関心だけでなく、どこで求められる資格なのか生徒に情報を伝え、他の資格取得に向けて取組ませる。各教員が連携し、取得に向けての補習を考える。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 全学科で技術者倫理に関する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルや公害問題等、過去の事例及び未来への注意点等を、座学と実習を通して全学科で指導した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工業の技術が、世の中でどのように利用されているのか、学習した内容が世の中でどのように役に立っているのかを実感を持たせることにより、誤った方向に技術が使われないように指導を行った。 情報管理の徹底や、リサイクル及び資源の有効利用等、技術者としての自覚を促した。
ウ	<p>グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一層充実した研修ができるように検討する。 英語検定等の受験者数の増加 (CEFR B1及びA2レベルの生徒数の増加) 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、海外研修を中止せざるを得なかったが、海外研修代替の国内における英語研修を計画した。最終的には、本校で研修を実施した。 進学、就職を問わず全生徒に英検取得の必要性を周知し、受験を促した。 	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外研修に替わる英語研修プログラムを企画した。募集人数の20名に対し、参加者は16名であった。今後は募集PRの仕方を工夫する必要があると感じる。 英検の受験者数は、昨年度より増加した。

様式第3号

<p>持続可能な社会の一員としての素養を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上 ・身だしなみがしっかりとできていると答える生徒95%以上 ・スマートフォン・携帯電話は適切に利用していると答える生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・94.5% (93.9%) あと一步で達成できる。 ・96.9% (96.8%) ほぼ達成できた。 ・81.1% (76.0%) 達成できた。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・身だしなみ・交通指導や巡視活動や感染症対策など学校全体で取り組み、規範意識の高揚や生徒の成長に繋げることができた。職員間の情報交換を密に、諸問題にも早期に対応することができ、全体としては落ち着いた状況であった。スマホやSNSの使い方については認識の甘い生徒もまだいるため今後も継続的な指導が必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上 ・図書館来館者数延べ10,000人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1.5冊 (1.2冊) 貸し出し冊数は現在延べ1,617冊 (1,331冊) 目標を達成できなかった。 ・5,087人 (6,651人) 目標を達成できなかった。 	<p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7月初旬に『私の一冊』を発行し、その中で紹介された本を展示することで生徒の読書活動を促した。図書館NEWS、新着図書紹介を定期的に発行し、スタンプラリー期間を年5回設けるなど、利用促進を図る努力をしている。文化祭では図書委員会主催の「ブックトーク」を開催した。来校者が制限された中、本校の生徒が多く来場した。 ・可動式書棚の小論文対策コーナーも、より充実させることができた。また、工業系や進路に関する漫画のコーナーは、生徒を図書室に呼び込むきっかけとなった。貸出冊数をどう伸ばしていくか、利用されやすい図書室にするにはどうすればよいかは今後も引き続き課題である。放課後18時までの開館時間延長は、本年度も週2日のみ事務補助員に変形労働時間制をとってもらう形で実施した。自習のために利用する生徒も増えてきたため、図書室に常駐する職員を置けるよう要請していきたい。 ・今年度は書架の整理を主として行い、書庫内はまだ若干の余裕があるため、廃棄の検討までは至らなかった。できるだけ多方面の教科の意見を参考にして廃棄図書の選別を進めたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・94.3% (昨年は実施せず) 目標を上回った。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でありながら、企業の協力を得てインターンシップを実施することができた。参加した生徒の進路に対する意識付けに効果があった。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・資源の大切さを意識させるとともに3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・73.6% (60.9%) 目標を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりを通して、3Sの意味を理解させ、昨年度より、積極的に取り組んでいる割合は増加し、目標を上回ることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・90.4% (92.0%) 目標を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通街頭指導を計画通りに実施した。
エ	カリキュラム・マネジメントを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程の編成 ・令和4年度から学校運営協議会制度を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程の編成 ・令和4年度の1年間をかけて、学校運営協議会制度の導入を検討することとなった。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に合わせた卒業までの教育課程編成を完了させることができた。今後は授業を実施しながら必要に応じて変更をしていくこととなる。
	特別支援教育体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談だよりを、月1回以上発行 ・1年生全員を対象としたカウンセリングを実施 ・個別の指導計画及び支援計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回の発行(月1回発行)達成できなかった。 ・1年生全員実施を対象として、1分間カウンセリングを実施した。 ・指導計画・支援計画を作成 	B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け、職員向け教育相談だよりを月1回発行できないことがあった。校内ネットワークや掲示により日々の相談、1分間カウンセリングの内容について情報共有を行った。相談担当内での情報共有強化が課題である。 ・支援計画やアセスメントシートを作成し、職員間の情報共有、支援会議を行った。必要な生徒には定期的に面談を行った。進路課、保護者、生徒課とも連携できた。発達支援センターからの助言を活用し、職員研修も行った。相談担当内での情報共有強化が課題である。
	教職員の資質・能力の向上を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員90%以上 ・授業参観した教員70%以上 ・授業力自己診断を実施した教員90%以上 ・多様な測定ツールを用いてP 	<ul style="list-style-type: none"> ・92.9% (92.9%) 達成できた。 各種研修会等を通して、教職員の資質・能力の向上を支援することができた。 ・73.2% (57.1%) 達成できた。 ・77.5% (92.9%) 目標を達成できなかった。 ・93.1% (94.3%) 	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員が役立てようと努力した教員も含めて、92.9%であった。ほぼ、目標を達成できたと評価できる。 ・ここ数年、授業参観した教員は、50%程度であったので十分評価できる値である。今後も積極的に呼びかけをする必要があると感じる。 ・これらは、いずれもかなり高い値で、十分評価出来るものと考えられる。 ・教員の積極的なICT機器の活用が見られた。今後は機器の整備も必要ではあるが、ソフト面の活用方法の

様式第3号

	<p>DCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を適切に実施していると答える教員60%以上 ・日常的に授業でICT機器を活用した教員60%以上 	<p>目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80.0% (65.7%) <p>目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・64.8% (51.4%) <p>目標を達成できなかった。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>共有化を進めていく必要がある。なお、情報機器の老朽化や新規機器の導入に伴い、管理に多大な労力が伴っていることも今後の検討事項である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、ICT機器の活用の仕方を教員間で共有していきたい。
教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修の実施1回以上 	<p>【随時実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教委が作成するコンプライアンス通信の発行等にあわせて実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のメンタルヘルス及びコンプライアンスの徹底は、常に意識し継続していくことが重要である。
学校教育活動に関する広報を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを月15回以上更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを月15回以上更新は達成された。更新回数259回 (184回) 週平均5.2回 (4.1回) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・例年以上に積極的にHPを更新したことにより、アクセスカウンターの視聴者数も増え、より多くの情報を閲覧者に与えることが出来た。学科や分掌・部活に積極的に情報を求め、さらにHP更新の願いをして記事数を増やし、「見たい学校HP」にしていくことが出来た。 ・学校経営計画書での「月15回以上」の目標達成だけでなく、内容がより魅力が増した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。 	<p>【機械工学】あまり達成できなかった。</p> <p>【ロボット工学】全国産業教育フェアへの出展</p> <p>【電気工学】実学チャレンジフェスタなど校外のイベントがコロナによる開催中止となったため、文化祭や1日体験入学など、校内での広報活動を行った。</p> <p>【情報システム】大学教授や企業技術者の講習会、学科研究部での校外企画への参加が行えた</p>	A	<p>【機械工学】コロナ禍のため、対外的なイベントが縮小された影響で活動する場面がなかった。そのような中行われた蒼穹祭では、課題研究作品展示、動画による中間報告などを行った。1、2年生で実習作品を準備して、その作品を来場者に配布してPR活動を行った。</p> <p>【ロボット工学】中学生対象のロボット教室が新型コロナにより開催できなかった。全国産業教育フェアにはWEB開催のHPに課題研究の発表を行うことができた。中学生人口が減少していくこともありもっと多くの発信をしていく必要がある。</p> <p>【電気工学】下記活動に参加することにより、電気工学科の特色を十分に広報することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学チャレンジフェスタ Web 開催参加

様式第3号

			【理数】中学生を対象とした科学教室を8月、9月に計画し、9月のみ実施した。		<ul style="list-style-type: none"> 文化祭、1日体験入学での製作物作成・展示。 ホームページでの広報（3回実施） 【情報システム】 高大連携による大学の講義及び民間企業とのWEBサイト制作企画、校外活動を実施できた。 【理数】 中学生の参加者は、45名であった。（定員45名）感染症への対策も継続する。
校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が校務で共有サーバを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ファイルサーバ等の共有機器は、問題なく運用できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> さらなる利便性とセキュリティ確保の観点からバランスの取れた運用方法を検討したい。また、迅速な障害復旧できる体制を整える必要がある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善を心掛けたとする教員70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 23.2%（12.9%） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標には遠く及ばなかったが、多少ではあるが業務改善が進んだ。「やめる、減らす、変える」ことにより、業務の効率化、多忙化解消及び教育の質の向上を図り、現状の業務の改善を進めていく必要がある。 「生徒と向き合う時間」や「授業準備時間」が増えたと感じる教員は昨年度に引き続き少なく、業務改善を進め、勤務時間内にゆとりが感じられるよう具体的な対策を行う。 多忙化は解消しつつあるが、多忙感はなかなか解消されない。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の点検の日を設けPFI担当者との点検月1回以上実施 施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を醸成し、消費電力量を削減 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の点検を行い、危険箇所や不良箇所の情報共有及び改修することができた。 夏季のエアコン稼働について、使用基準を設けて職員に周知・徹底させ、消費電力量の削減に努めた。（前年（4～11月）比 -13.1%） 	B A	<ul style="list-style-type: none"> 点検及び小規模な改修は速やかに対応できた。今後もPFI事業者と連携を密にして、危険箇所の解消に努めていく。ただし、大規模な改修については、PFI事業者が施行するか、学校が施行するかの判断を県教委と相談して、迅速に対応していく。 エアコンの使用電力量が大きな比率を占めるが、生徒の体調管理に十分注意しつつも、授業空き時間のスイッチ切り忘れ防止についての呼びかけ強化や、省エネ型の電化製品への交換に取り組んでいく。 	